

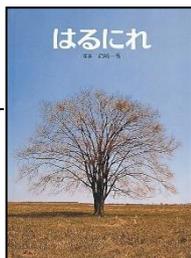
テーマ「ぽかぽか 春とおともだち！」

春はすぐそこ！ぽかぽかおひさま、かわいい花や虫たち、みんなあつまれ！

えほん

『はるにれ』

あねさきかずま
姉崎一馬／写真



ふくいんかんしょてん
福音館書店

草原に1本だけ立つ大きな木くはるにれ。春になると、あざやかな緑色の葉っぱをつけて元気いっぱい！はるにれの1年を写真で楽しむ、文字のない絵本です。



『わたしのちいさいいきものえん』

おおしまかなこ
大島加奈子／作 福音館書店

テントウムシ、モンシロチョウ、春のいきものたちをおうちでお世話してみよう！ペットボトルや空のパックで飼育ケースをつくる方法や、お世話の仕方を紹介します。

『おひさまパン』

エリサ・クレヴェン／作・絵 金の星社

太陽がかくれてしまって、暗くて寒い町。どうぶつたちは家に閉じこもっています。そこで、パン屋さんは太陽のかわりに、おひさまの形の大きなパンを焼くことにしました。すると、太陽はパンの香りにさそわれて…？おひさまパンのレシピ付き。

『皇帝にもらった花のたね』

デミ／作 徳間書店

ある日、皇帝が国中の子どもたちに花の種を渡しました。大切に育てて、1年後に皇帝に見せなければいけません。花が大好きな少年ピンは毎日がんばってお世話をしましたが、1年たっても芽が出ません。ピンはどうするのかな？

【図書館〇×クイズ】こたえは うら面へ！

図書館には2階がある。〇か×か？

ものがたり

『春のお客さん(車のいろは空のいろ 2)』

あまんきみこ／作 ポプラ社

タクシー運転手の松井さんと、ふしぎなお客さんたちとの出会いを描いたシリーズ。春のある日、乗ってきたのはお母さんと五つ子の男の子たち。ようちえんの見学に行くみたいです。ようちえんに着いてタクシーから降りると、男の子のズボンからふわっとこげ茶色のしっぽが出てきて…？低学年から。

『まよなかのサイクリング(しばいぬチャイロのおはなし 1)』

たるいしまこ／作 あかね書房

たっくんの家のしばいぬ、チャイロ。ある夜、こっそりたっくんの自転車にのって、さくらのなみきを見ながらサイクリング！楽しいチャイロのぼうけんシリーズ。低学年から。



『つるばら村のはちみつ屋さん』

茂市久美子／作 講談社



つるばら村でみつばちを飼っている、養蜂家のナオシさん。みつばちたちが元気にとびまわる春は、1年でいちばんうれしい季節です。みつばちたちががんばって集めたはちみつ。味見をしたナオシさんは「おやっ」と首をかしげました。今年のはちみつは、いったいどんな味…？ 中学年から。

『みどりのゆび』

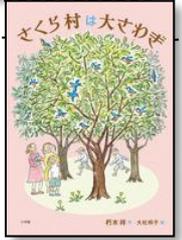
モーリス・ドリュオン／作 岩波書店



学校になじめない男の子チトは、指で触れた場所に花を咲かせる<みどりのゆび>を持っていました。チトは町中を花でいっぱいにして、みんなを幸せにしていきます。最後には、不思議な力を持つチトの正体が明かされます。高学年から。

『さくら村は大さわぎ』

朽木祥／作 福音館書店



さくら村は、春になるとどこを見てもさくらが満開！村には、子どもが生まれたらさくらの木を1本植える約束があって、人の数だけさくらの木があるんです。さくら村では、毎日おもしろいこと、びっくりすることがいっぱい起こります。どんなことかという…。中学年から。

『秘密の花園』

F. H. バーネット／作 講談社



両親を亡くし、親戚の屋敷に引っ越してきた不機嫌な女の子メアリ。屋敷には、鍵がかかった<秘密の庭>がありました。メアリは病弱なこのコリン、動物と話せるディコンとともに庭の手入れを始めて、生きる力を取り戻していきます。高学年から。

そなた

『はるをさがしに』

七尾純／文 久保秀一／写真 偕成社

野原に明るい光が差したのを感じて、おちばの下から出てきたてんとうむし。春が来たのかな？ 探しに行こう！ 春の自然をきれいな写真で楽しめます。



『牧野富太郎 植物の神様といわれた男』

横山充男／著 ウチダヒロコ／絵 くもん出版

なぜ、春になると花が咲くのか？ 大好きな植物をもっと知りたいという探究心で、生涯を通して研究をやりとげた富太郎の人物伝です。



この場所は、たぐさんの本を保存できるように2階建てになっています。
図書館には、図書館で働いている人がいろいろな【車庫】の場所があります。

○【？？？】

ひがしとしよかん

☎62-0190 (木曜日やすみ)
10:00~18:00 (金요일は 19:00まで)

にしとしよかん

☎75-5406 (月曜日やすみ)
10:00~18:00 (火요일は 19:00まで)